

産地戦略

実施期間 令和5～6年度

実施主体 栃木県
都道府県 栃木県
対象地域 県内全域
対象品目 水稲（主食用）



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

ペレット堆肥を利用することで、堆肥の運搬や散布に専用機械が不要となり、これまで利用が限られていた地域においても堆肥の利用が可能となり、利用地域の拡大が期待される。特に多肥栽培が一般的な飼料用米において、ペレット堆肥の利用による化学肥料の削減技術の普及拡大を目指す。またセンサーの活用により、水田の水位情報をは場に行かずとも確認することが可能となり、水回り時間が短縮される。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	栽培マニュアルに記載のとおり												
技術名													



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	栽培マニュアルに記載のとおり												
技術名													

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	51,000 ▶ 60,000		
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.8 ▶ 10		
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.8 ▶ 10		
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.8 ▶ 10		

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化学肥料や鶏糞による施肥	▶ 豚ぶんペレット堆肥の施用	ペレット堆肥施用による化学肥料の削減
省力	自家用車や徒歩によるほ場見回り	▶ 水位センサーにによる水管理	ほ場見回り回数の削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学肥料の削減量	100	▶ 70	化学肥料のみの場合の化学肥料の量を100としたときの指標値
省力	水管理作業	5～6回/週	▶ 4回/週	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

グリーンな栽培体系の普及、定着に向け、今回の実証結果をHP等を活用して、生産者へ広く周知する。また、栽培講習会や時期別管理情報の発信を行う際に、グリーン農業技術を随時紹介し、取り組みを促していく。

関係者の役割

関係者名	全農業振興事務所	生産者		
役割	マニュアル作成及び技術指導による技術の普及	技術の実証及び導入		

その他